

製品名: SENP1 (18B5) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe17723**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:10000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:500,FC 1:20-1:50
分子量	73kDa

抗原情報

遺伝子名	SENP1
別名	SENP1; SuPr2;
遺伝子 ID	29843.0
SwissProt ID	Q9P0U3
免疫原	ヒト SENP1 の合成ペプチド

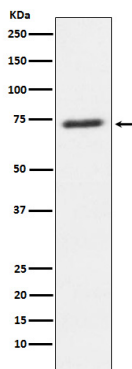
背景

SUMO 経路における2つの重要な機能を触媒するプロテアーゼ。すなわち、全長SUMO1、SUMO2、SUMO3を成熟型にプロセシングし、標的タンパク質からSUMO1、SUMO2、SUMO3を脱共役させる。SUMO 経路における2つの重要な機能を触媒するプロテアーゼ (PubMed:10652325, PubMed:15199155, PubMed:16253240, PubMed:16553580, PubMed:21829689, PubMed:21965678, PubMed:23160374, PubMed:24943844, PubMed:25406032, PubMed:29506078)。1つ目は、小型ユビキチン様修飾因子 (SUMO) プロペプチドであるSUMO1、SUMO2、SUMO3のC末端にある α 結合ペプチド結合を加水分解し、成熟型タンパク質へと導くことです。2つ目は、成熟SUMOのC末端グリシンと標的タンパク質のリジン ϵ アミノ基との間の ϵ 結合ペプチド結合を切断することにより、標的タンパク質からSUMO1、SUMO2、SUMO3を脱共役させることです。HIPK2からSUMO1を脱共役させます (PubMed:16253240)。HDAC1およびBHLHE40/DEC1からSUMO1を脱共役させ、転写抑制活性を低下させます (PubMed:21829689)。CLOCKからSUMO1を脱結合させ、転写活性化活性を低下させる (PubMed:23160374)。MTA1からSUMO2を脱結合させ (PubMed:21965678)。METTL3からSUMO1を脱結合させ (PubMed:29506078)。CCAR2を脱SUMO化し、SIRT1との相互作用を低下させる (PubMed:25406032)。GPS2からSUMO1を脱結合させ (PubMed:24943844)。

研究分野

細胞生物学

画像データ



U87-MG 細胞溶解物における SENP1 発現のウェスタン ブロット解析。